

Aquatic Functional Materials News



February 2024 ▶ No. 18

文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究 (研究領域提案型) (No. 6104) 令和元年-5年度

水圏機能材料:環境に調和・応答するマテリアル構築学の創成

第7回領域会議 開催報告

日時: 2024年1月28日(日) ~ 30日(火)

場所: 東京大学伊藤国際学術研究センター

主催: 新学術領域研究「水圏機能材料:環境に調和・応答するマテリアル構築学の創成」総括班

今回の領域会議は、5年間の研究期間内において全員が集結する最終の機会となることから、昨年度大阪大学会館にて行われた第6回領域会議に引き続き、対面での開催となりました。評価委員の先生方、産学連携アドバイザーボードの皆様、文部科学省学術調査官の先生にもご出席いただき、総勢約85名の参加による2日半に亘る会議を行いました。

会議は加藤領域代表の挨拶と趣旨説明から始まり、今回もほぼすべての計画研究者と公募研究者が揃い、研究者全員が研究の進捗とまとめに関してポスター発表とショートトークを行いました。「つくる」「つなぐ」「はたらく」「みる」のトピックごとのセッションに分類され、作用機序の解明、材料の高

機能化、新しい材料の開発、新しい発見などに関して、計画研究者は5年間、公募研究者は2~4年間の期間を通じた研究成果が報告されました。一連の発表を通じて、水と材料の相互作用を「水を分子としてとらえる」という共通の視座を各研究者が意識し、目的に一丸となって向かい、新しい分野の創成への留まることのない勢いが感じられました。

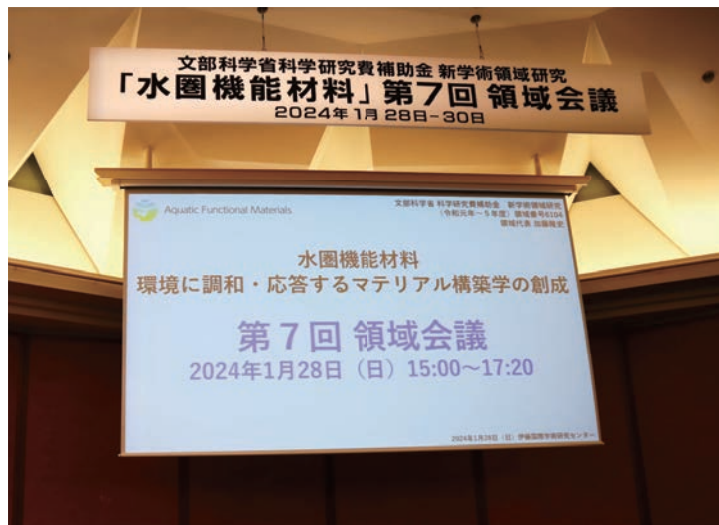
個別の研究成果発表に加えて、領域内共同研究成果報告のセッションも設定され、約10件の発表が行われました。本領域の開始直後に新型コロナウイルス感染症対策のために対面会議が数年にわたり制約されてきましたが、加藤領域代表の発案によるオンラインツールを活用した会議の工夫によって、それ



まで互いに面識がなかった研究者間にも共同研究が数多く生まれました。新学術領域研究の役割の一つである共同研究の推進、特に分野を超えた共同研究が活発になされたことを如実に示すものとなりました。

一連の発表を通じて、多くの材料研究者から、これまでに水という観点に着目してこなかったが、加藤領域代表が提示した水の役割を考えるという新しい視座を得たことでブレークスルーがもたらされたと言及された点、加藤領域代表の牽引による活発な共同研究によって、本領域なしでは存在しなかったであろう共同研究が多数結実し、未来に向かってさらなる発展が期待される点、若手スクールなどを通じて人材育成につながった点などが印象的であり、多角的な視点からこの5年間はまさに新しい学術領域を醸成する期間となったことが伺えました。本会議では、ポスター発表時間、休憩時間、懇談会の時間が長く設定され、研究者間で議論を行うために十分な時間があって良かったとの感想を聞きました。

さらに、評価委員の川合眞紀先生より極めて示唆に富んだご講演をいただき、参加者全員がメッセージを強く受け止めました。また、最後には評価委員の先生と産学連携アドバイ



ザリーボードの皆様からご講評をいただき、各研究成果と共同研究に関する高い評価と領域研究終了後の発展の指針となるご提言をいただきました。

本領域研究は本年3月末を以て終了しますが、今後につながる科学技術の基盤と新しい分野の創成に向けた研究者間のケミストリーの形成が確認できた会議となりました。参加者の皆様に深く感謝申し上げます。

(神奈川大理・辻 勇人)



Aquatic Functional Materials

文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究 (研究領域提案型) (No. 6104) 令和元年-5年度
「水圏機能材料:環境に調和・応答するマテリアル構築学の創成」
 ニュースレター第17号(2024年2月発行)

■編集・発行 「水圏機能材料」総括班

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1

<https://www.aquatic-functional-materials.org>

東京大学大学院工学系研究科 加藤研究室内